

### 【五行説】

東洋医学では、生体内の臓器組織を臟腑と呼び、実質臓器を五臟（心・肺・脾・肝・腎）、管腔臓器を六腑（小腸・大腸・胃・胆・膀胱・三焦）と呼び、生体のアンバランスを臟腑の不具合からみてきました。この考え方は、古代中国における五行説に基づくわけです。

五行説は、自然界に存在する物質は、「木（もく）、火（か）、土（ど）、金（こん）、水（すい）」の五つの要素によって構成されているという考え方です。そして、我々が認識する自然界の現象は、すべてこの五つの要素の運動・変化によって説明が可能とされました。

五行の「行」は、運動・変化の規律です。そして、宇宙を大宇宙、人間を小宇宙として、生命現象も五行説の応用で説明することが可能と考えました。

<表：五行の概念>

五行	五臟	五腑	五体	五官	五華	五神	五志	五声	五勞
木	肝	胆	筋	眼	爪	魂	怒	呼	歩
火	心	小腸	血脈	舌	面色	神	喜	笑	視
土	脾	胃	肌肉	口	唇	意	思	歌	坐
金	肺	大腸	皮毛	鼻	体毛	魄	憂	哭	臥
水	腎	膀胱	骨	耳	髮	志	恐	呻	立